

## 光といのち

第154号

— お盆 —

2025年8月1日発行  
発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

HP <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌(井上孝昌)

戦争はこの世の  
最大の罪悪である  
人間が殺しあうの  
だから

池田勇諦師

# 悲願の鐘

(見開きページをご覧ください)

暑中お見舞い

申しあげます。

原子爆弾が広島・長崎に投下され、第二次世界大戦が終結し、八十年目の夏を迎えました。

私たちは、二度と戦争の惨禍を起こすまいと国際連合を設立し、日本国憲法で戦争を放棄しました。理性と道徳を信頼して、世界平和を叶えようと。

しかし大国の拡張主義や強権的指導者により、今やその理念は踏みつけられ顧みられません。ウクライナやパレスチナなどで続いている戦争とその惨禍は、これが原因です。

私たちの理性は、戦争を自らの「罪悪」とは懺悔しません。常に自らが《正義》ですから。

その《愚かさ》を知らされること。今それが、私たち全人類の課題でありましょう。

池田勇諦師は、「被爆八十周年 非核非戦のつどい」で、

「『非』の自覚に起つ」と講題に掲げ、この《愚かさ》を見ない私たちの生き方を示されました。

「この『非』は、仏教の説く「中道」のこと。賛成と反対の

両極を切り、真理になつた生き方をさせてもらうことです。

このつどいの名にある「非核非戦」は、「反核反戦」ということではありません。「反」では、「賛核賛戦（抑止力である核保有に賛成・防衛戦争に賛成）」という立場も一方にありますから、必ず対立を生みます。

この反対と賛成の両極、人間（理性）の立場を、「非」と切り捨てる。これが「非戦非核」です。

この智慧が、南無阿弥陀仏です。私たちは、「非」の自覚に起つ生き方、仏（智慧）の立場に立脚した生き方を、どこまでも致しましょう。

これが私の申しあげたいことです」と。

世のなか安穩なれ、仏はひろまれ  
親鸞聖人

うらぼんえ  
盂蘭盆会

八月十日(日)

十時～十一時半

ズーム配信します。メールでお申し込みください。

## 悲願の鐘（通称 平和の鐘）

口径 約一メートル  
高さ一・七メートル  
重さ一・二〇〇キロ  
制作 香取雅彦  
建立 原爆被災者広島悲願結晶の会

一九六四年九月二十日、秋彼岸の中日、原爆被災者の悲願を結晶して、広島平和記念公園の一角、かつて被爆者の屍体が、るいと積み重ねられたその地点に、悲願の鐘が建立された。

ここに、原爆被災者の悲願とは、死の灰を浴びて、既に、死亡された人々の平和の願いを意味する。

建立の祝いの式が行われたこの日、オリンピックの聖火が、広島に到着した。

原爆をつくり出したことによつて、自らを滅亡の深淵におとし入れた人類は、この滅亡をまぬがれようとして、苦悩をつづけている。

しかし平和は、生存の欲望をもつて、招きよせることが出来るのであろうか。

平和の実現は、真理の認識から始まらねばならない。

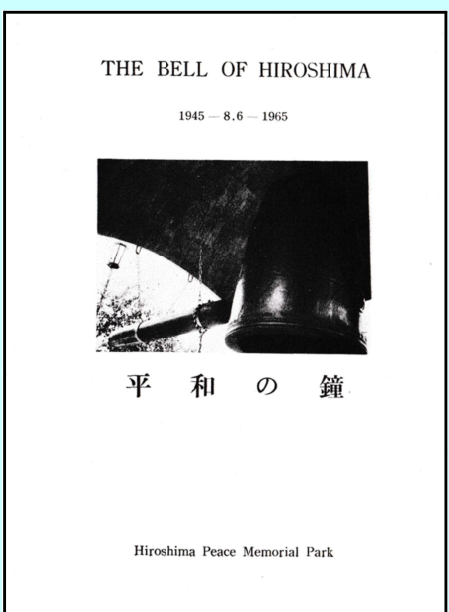
原爆は、人類が、その全史を通じて、造りつづけてきた罪業の結晶である。

われわれは、自らつくり出した罪の報いをまぬがれようとするのではなくして、既に、その報いを引き受けて、なくなつた人人の現実に、思いをいたさなければならぬ。

その欲望の只中に、清浄な願いが光つてい

るではないか。

平和は、彼の岸からくる。  
生の欲望ではなくて、死の事実から、建てられてくる平和の願い、それが悲願である。  
この鐘の正面に刻まれた「悲願」の二字



この鐘の制作者 香取雅彦 氏は、「人間国宝」に認定された<sup>いもじ</sup> 鑄金工芸家です。

氏の著作『鑄師の春秋』に、

「この鐘は、平和祈願に燃えた一人の篤信家の熱意で生まれたといつてよい。

金沢大学の助教授であつた西村見暁という人がある日突然私の家を訪ねて来られ「広島に平和祈願の鐘をつくつてほしい」といわれた。（略）西村さんは、東京オリンピックの年を單なるスポーツだけのものにしたくないと、平和祈願の梵鐘づくりを発願された。大学をやめ広島の原爆落下地点に近い所に居を移し、退職金などの資材を投じて鐘づくりに奔走されたのである。私もその心意気うたれ、実費で制作をひきうけるといふ、いろいろな意味で異色の鐘となつた。」

と、記されています。

右のリーフレットに「建立 原爆被災者広島悲願結晶の会」とあり、発願者 西村見暁 師の名前は無い。しかしこの一文に、師の世界平和への叫びが響いてきます。

（前広島市長浜井信三筆）がこの鐘の名である。

悲願の鐘には、平和の象徴として、全面に、国境のない世界地図が描かれている。闘争は、境から始まる。

国と国。人と人。すべて境は、自分の生と、自分の死との、境の反映である。

この境のある限り、平和はない。

この境のとれたところにだけ、平和は実存する。

従つて、この鐘は、「自己を知れ」の一語に、その願を結集した。

西哲ソクラテスを生み出した、このデルフォイの神勅が、ギリシャ語（駐日ギリシア大使アレクシス・レアティス筆）と日本教育会長・前広島大学長森戸辰男筆）をもつて記された。

自己を知ることが、平和を現実とする唯一つの道であることを表わして、赤道と国際日時標準線の交点に、円形の鏡が磨き出された。

自らの顔を、この鏡にうつして、後に、この鐘は撞かねばならぬ。

敵は、これを、攻めることによつては亡びず、己を知ることによつて、消える。

鏡の中心が位置する、経度・緯度、共に零度の点。精神のこの地点からこそ、国境のない世界が開くのである。

自己を知ることの極みは、自己が零となること。その時、宇宙が、自己となる。

死ぬべき自己が死んで、死ぬことのない自己が生れる。

この生命の転換を表現して、この鏡は、赤道と、国際日付変更線（経度一八〇度）

輝く、平和の悲願である。

この悲願が、一本の撞木に凝結して、我が盲目の核を打ち砕くとき、死ぬことのない生命の自覚の讃歌が、全宇宙に響きわたるのである。

この魂の自覚の響きは、天体の輝きに呼応する。それは、宇宙生命、そのものの願心である。

この宇宙の心を表現して、この鐘の肩回りには、日と、月と、南十字星と、北斗七星とが、夫々、東・西・南・北に位置し、一連の瑞雲が、これを結んでいる。

かくて、この鐘は、二羽の鳩を配した、龍頭をもつて、宇宙型の鐘堂につるされる。宇宙を表現した丸屋根を、四本の柱が支える。その宇宙の中心に、地球の中心が重なる位置に。

この中心の一点こそ、本来の自己の座である。

しかし、宇宙を支える柱とは、何であろうか。

(1) 生成。(2) 持続。(3) 破壊。(4) 消滅。即ち、万物の流転である。

而して、人間は、これを、生・老・病・死の四苦として、体験するのである。

自己を私有するものにとつて、苦しみの世界であるこの宇宙は、自己を解放したものとつては、実に、浄土なのである。

鐘堂の周囲には、玉池を作つて、色とりどりの、貴重な蓮が植えられて、浄土を莊嚴する。

- (1) 黄蓮 米国産。皇太子様からの寄贈。
- (2) 白蓮 中国廬山の白蓮社の蓮。
- (3) 紅蓮 二千年前の土中から発掘され、大賀博士によつて、蘇生した蓮。
- (4) 紫蓮 インドから贈られた水蓮。

6月8日(日) 8:30~10:30

# 勝善寺奉仕作業



みなさん輝いています。有り難うございました。

|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  |             |       |       |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|--|--|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|--|--|--|
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 一列目右から(敬称略) |       |       |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 高梨 維夫       | 能重 勉  | 狩野 昌也 | 田中 誠  | 明石 義久 | 田中 嘉一 | 川名 信之 | 田村 晋一        | 川名 喜昭 | 大胡 幸弘 |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 重田 和夫       | 吉田 誠  | 福原 広実 |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 二列目         |       |       |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 井上 泰之       | 朝倉 和利 | 鈴木正一郎 | 三堀 清  | 田村 徹夫 | 高梨 剛  | 川名 利幸 | 中山 郁夫        | 富永 清人 | 池田 義正 |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 三列目         |       |       |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 井上 悦子       | 川名三枝子 | 伊藤 照代 | 渡邊 秀子 | 大胡真紀子 | 堀海 榮子 | 石井 久  |              |       |       |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 四列目         |       |       |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  | 長谷川吉枝       | 姫松 信子 | 大胡登美子 | 池田千代枝 | 川名志緒子 | 黒川 敦子 | 重田 明美 | 写真に写っていない参加者 |       |       |  |  |  |
|       |       |       |       |       |       |       |  |  |  |             |       |       |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |
| 井上 孝昌 | 西尾 和恭 | 増田 一之 | 西尾 政男 | 富澤眞知子 | 鱸居 政男 | 増田 一之 |  |  |  |             |       |       |       |       |       |       |              |       |       |  |  |  |

墓地や境内の清掃・草刈などをお願いしているシルバー人材の関戸肇さんは、造園業に若い頃に携わっておられました。花菖蒲の株分けを昨年お願いしたところ、見事に咲きました。



6月上旬が見頃です。

地下水の浸食による参道下の大きな空(うろ)を埋めるため側溝を据え直し法面の土留めをし、参道と隣接する市道の補修工事を行いました。自動車での往来がスムーズになりました。



6月下旬~7月上旬

## 予定ください

|      |           |      |           |     |              |            |               |       |               |      |               |       |               |    |     |    |     |    |        |        |               |      |               |     |          |        |         |            |             |      |           |      |              |            |              |       |              |        |         |      |             |        |              |
|------|-----------|------|-----------|-----|--------------|------------|---------------|-------|---------------|------|---------------|-------|---------------|----|-----|----|-----|----|--------|--------|---------------|------|---------------|-----|----------|--------|---------|------------|-------------|------|-----------|------|--------------|------------|--------------|-------|--------------|--------|---------|------|-------------|--------|--------------|
| 孟蘭盆会 | 8月10日 10時 | 秋彼岸会 | 9月23日 10時 | 役員会 | 10月5日 13時30分 | 仏教を聞き語り合う会 | 10月12日 13時30分 | 世話人総会 | 10月19日 13時30分 | 仏具磨き | 11月10日 13時30分 | 報恩講準備 | 11月14日 13時30分 | 速夜 | 15時 | 晨朝 | 15時 | 日中 | 15時10分 | 勝善寺聞法会 | 12月14日 13時30分 | 除夜の鐘 | 12月31日 23時45分 | 修正会 | 1月2日 10時 | 八日講十日講 | 1月8日 9時 | 仏教を聞き語り合う会 | 2月8日 13時30分 | 春彼岸会 | 3月20日 10時 | 花まつり | 4月12日 13時30分 | 仏教を聞き語り合う会 | 5月10日 13時30分 | 中佐久間講 | 5月21日 13時30分 | 八日講十日講 | 6月7日 9時 | 奉仕作業 | 6月14日 8時30分 | 勝善寺聞法会 | 6月14日 13時30分 |
|------|-----------|------|-----------|-----|--------------|------------|---------------|-------|---------------|------|---------------|-------|---------------|----|-----|----|-----|----|--------|--------|---------------|------|---------------|-----|----------|--------|---------|------------|-------------|------|-----------|------|--------------|------------|--------------|-------|--------------|--------|---------|------|-------------|--------|--------------|